学校番号	1013

令和２年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　改訂版　日本史Ａ　人・くらし・未来（第一学習社）						
副教材等	使用しない						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・わが国の伝統と文化の特色を、歴史の流れと積み重ねの中で考える。
・歴史の考察を通して、現在や未来の日本のありかたを考える。

２　学習の到達目標

・史資料に親しんで、歴史的なまなざしを培う。
・わが国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察する。
・一般的な歴史上の基礎事項を身につけたうえで、時間軸に沿って物事を考える思考法を習得する。
・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と素質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	C：資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	わが国の歴史の展開に関する関心と課題意識を高め、意欲的に追求し、日本国民としての責務を果たそうとする。	わが国の歴史の展開から課題を見出し、多面的・多角的に考察しわが国の伝統や文化に対する認識を深め、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、その家庭や結果を適切に表現している。	わが国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。	わが国の歴史の展開についての基本的な事項を、国際環境と関連づけて総合的に理解し、その知識を身につけている。
評価方法	ワークシート レポート ノート 授業中の発言・取り組み状況	定期考査 ワークシート レポート	定期考査 ワークシート ノート	定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	前近代～近代初期の日本	第１章　近代国家の形成と国際関係の推移 ・近代への胎動 ・開国と幕末の動乱 ・近代国家の形成 ・国際関係の推移と近代産業の発展	 ○ ○ ○	 ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○	a：前近代と現代を連続的にとらえ、歴史のなかに現代の諸課題の背景を見出そうとしている。 b：幕末・維新期の日本社会がなぜ、どのようにして成立したのかを多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c：必要な資料・写真などを収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。 d：明治日本の成立と、その改編について、理解し、その知識を体系的に身につけている。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度
二学期	近代の日本	第２章　両大戦をめぐる国際情勢 ・第一次世界大戦と日本 ・第二次世界大戦と日本	 ○ ○	 ○ ○	 ○	 ○ ○	a：両大戦を連続的にとらえ、両大戦の特徴、違いについて意欲的に追究しようとする。 b：両大戦の特徴を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c：戦争に関する資料や写真などを収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。 d：両大戦を、日本と現代を含めた国際関係のなかで理解しようとしている。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度

三学期	現代の日本	第１章　現代の日本と世界 ・日本の再出発 ・独立後の政治と経済の発展 ・現代の日本と世界	 ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○	 ○ ○	A 現代日本のなりたちに対する関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 b:戦後日本の政治、経済、それを取り巻く世界情勢について、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 c:戦後に日本と世界について、資料や写真などを収集し、有用な情報を選択して読み取ったり、図表にまとめたりしている。 d:現代の日本の諸課題について、歴史のなかで理解し、知識を身に付けている。	定期考査 ノート ワークシート 出欠状況 授業態度

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。